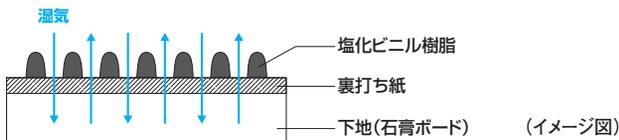


通気性 (透湿性)

空気や湿気を通すため、石膏ボードへ施工することで湿気を吸収・放出します。特に、調湿石膏ボードに施工することで、より大きな効果が期待できます。



※下地との組み合わせにより吸放湿効果が得られます。
壁紙単体での吸放湿効果は期待できません。

■通気性・透湿性に関する商品の特徴

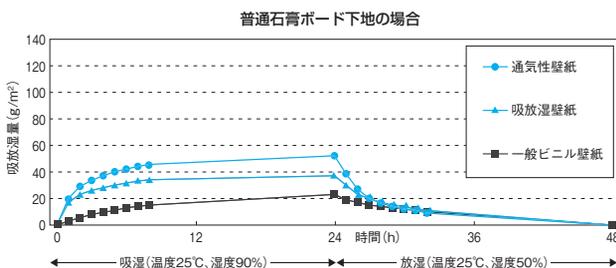
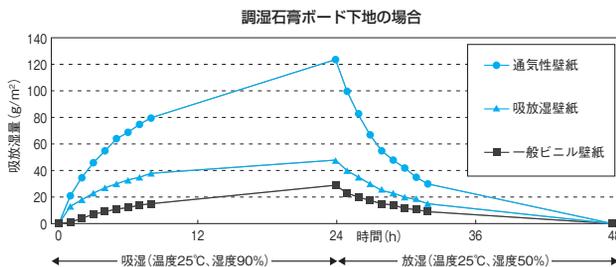
壁紙の種類	透気度(秒)	通気性	透湿度(g/m ² ・24h)	透湿性
通気性壁紙	200前後	高い	1500前後	高い
吸放湿壁紙	1300以上	ほとんどなし	500前後	低い
一般ビニル壁紙	1300以上	ほとんどなし	200~400	非常に低い

(試験方法)

- 透気度(JIS P 8117)……一定量の空気が通り抜ける時間を測定する方法で、数値が小さいほど通気性が高いことを示します。
- 透湿度(JIS Z 0208 B法)……通り抜けた水分量を測定する方法で、数値が大きいほど透湿性が高いことを示します。

■吸放湿性試験結果

グラフの起伏が大きいほど吸放湿性に優れることを表しています。

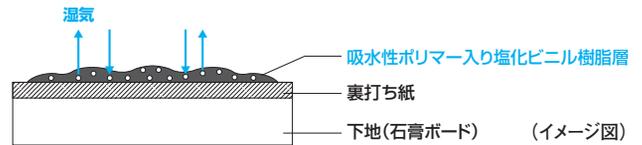


(試験方法)

室温25℃の状態湿度50%から90%に加湿した後、再び50%に除湿して重量の変化を測定。下地のボード厚は9.5mm。

吸放湿

吸水性ポリマーを配合しており、湿度の変化に応じて湿気を吸収・放出します。



※空気や湿気をほとんど通さないため、調湿ボードに施工しても効果はありません。
普通石膏ボードへの施工をおすすめします。

■吸放湿性を活かす組み合わせ

下表は、壁・天井面に使用する壁紙と下地の組み合わせによる吸放湿量を表したものです。開口部を差し引いた6畳間の施工面積を想定したもので、壁面を24m²、天井面を9m²とし、それぞれの最大吸放湿量から算出しました。壁紙の種類だけでなく、下地との組み合わせによっても大きく異なりますので、ご参考にしてください。

●壁紙と下地の組み合わせによる吸放湿量

壁面 (24m ²)			天井面 (9m ²)			部屋の合計 吸放湿量
壁紙	下地	吸放湿量	壁紙	下地	吸放湿量	
通気性	調湿	2,976	通気性	調湿	1,116	4,092
吸放湿	普通	888	通気性	調湿	1,116	2,004
通気性	普通	1,248	通気性	普通	468	1,716
吸放湿	普通	888	吸放湿	普通	333	1,221
ビニル	普通	552	ビニル	普通	207	759

通気性:通気性壁紙 調湿:9.5mm調湿石膏ボード (吸放湿量:g)
吸放湿:吸放湿壁紙 普通:9.5mm普通石膏ボード
ビニル:一般ビニル壁紙



●部屋の合計吸放湿量を200ccのコップに換算

部屋の合計吸放湿量4,092gを、200ccのコップに換算すると約20.5杯になります。

部屋の合計吸放湿量(g)	200ccのコップに換算(杯)
4,092	20.5
2,004	10
1,716	8.6
1,221	6.1
759	3.8

※吸湿量は㎡当たりの吸湿量からの理論値であり、保証値ではありません。

■使用上のご注意

- 吸湿性があるため、一般ビニル壁紙に比べて水汚れも吸い込みやすい特性があります。水廻りなど頻繁に水や汚れがかかる場所には適しません。
- 過度に湿気が多く、湿気が逃げない場所に吸湿性の高い壁紙を使用すると、水分を吸い込んだままいつまでも湿った状態となつてかびを発生させる場合もありますので、ご注意ください。
- 吸放湿性による調湿機能は、除湿機とは異なり、あくまでも補助的な役割にすぎません。常に換気を心がけ、通風を良くし、湿度の上昇を抑えるようご配慮ください。
- また、効果は環境や気候などの条件によっても変わります。
- 結露を抑えるには、壁紙だけでなく、建物の構造や設備、換気や住まい方など複合的な対策が必要です。

※機能性壁紙の試験結果は実測値であり、保証値ではありません。